

がんなど病気の悩みを語り合い、相談できる「まちなかメディカルカフェin宇都宮」を先月「開店」。ボランティアで運営する主催者代表の医師の思いを聞きました。

精神的なサポートが必要

がんカフェとちぎ代表

平林 かおるさん(55)

—どのような「カフェ」
なのでしょか

病気を持たれた方やご家族が安心して話せる場所を提供して、前向きに生きるために支援することを目標としています。通常の診察や治療は行わず、対話を通して悩みに寄り添うことが基本方針です。

—スタッフは医療関係者が多いのですか

医師や看護師、医療ソーシャルワーカー、カウンセラー、介護士など多くの職種の方がかかわっています。登録者は現在、35人です。

自身も3年前に手術

—ご自身もがん治療を受けたとお聞きしました

3年前に乳がんの手術をして、化学療法や放射線療法を



受けました。病理医として、

自分の標本を見て主治医と夫

に説明する、といった経験も

しました。病気のときは、い

ろいろなことを考えますよ

ね。あるときから、フツと吹

っ切れるのですが、その時

期、お寺の境内で、ずっと木

を見続けていたこともありま

す。精神的なサポートの必要

性を感じました。

—「カフェ」を開こうと
思ったきっかけは？

昨年9月、宇都宮で開かれ

た「リレー・フォー・ライ

フ」(がん征圧の願いを込め

て交代で夜を徹して24時間歩

くイベント)に参加したと

き、がん患者さんやご家族の

方から様々なお話を聞きし

て、気軽に相談できる場所が

あったらいいな、という思い

ひらばやし・かおる 県立がんセンター病理診断科医師、がんカフェとちぎ代表。福島県郡山市出身。独協医大卒。娘2人は独立し、夫、愛犬2匹と壬生町在住。第2回「まちなかメディカルカフェ」は宇都宮市江野町の「下野新聞NEWS CAFE」で今月26日開催。参加無料。問い合わせは事務局の市川明さん(028・635・7549、メールはgancafetochigi@gmail.com)へ。

を強くしました。

—相談できる場所として

順天堂大学医学部・樋野興夫

教授の「がん哲学外来」が全

国で広がりをみせています

私も昨年11月、樋野先生の

「お茶の水メディカル・カフ

エ」に参加しました。その空

間に入って、医療者や宗教者

の方たちとお話をするこ

とで、とても心地のよいものに

触れた、と感じました。

—それから半年もたたな

いうちに実現されました

私自身、驚いています。樋

野先生の会に申し込みをした

ころ、情報交換をしている

「在宅緩和ケアとちぎ」のメンバーの中で村井邦彦先生(村井整形外科院長)が「がん哲学外来」のようなものが栃木でもできないか」と、つぶやかれたんです。「私も手伝います」と返信を送ったことから、話が動き始めました。短期間の準備で開催できたのは、村井先生を始め行動力のあるみなさんのおかげです。

お気軽に足を運んで

—今後の展開は？

月に1回、開催していきたいま

す。患者会や各関連団体など

とも連携しながら、人数に応

じて回数や場所を増やすこと

も視野に入れていきます。介

護、福祉などの相談にも応じ

られるようにスタッフを充実

させたいと思っています。相

談や対話をさせていただくこ

とで、我々も学ばせていただ

いているという思いです。お

気軽に足をお運び下さい。

今回の「カフェ」開設は、

がん細胞と対話してきた病理

医で、がん患者である自分に

与えられた使命とも思っています。

(聞き手・堀井正明)